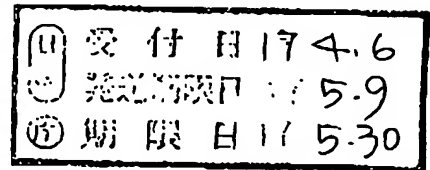


整理番号: NT00P0891 発送番号: 105514 発送日: 平成17年 3月29日

拒絶理由通知書



特許出願の番号 特願 2001-006513
起案日 平成17年 3月18日
特許庁審査官 加藤 隆夫 8204 2M00
特許出願人代理人 小川 勝男 (外 2名) 様
適用条文 第29条第2項



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・ 請求項 1
- ・ 引用文献等 1, 2
- ・ 備考

引用文献1 (請求項1, 2, 段落【0033】、【0039】－【0040】、図1, 21を参照) には、反射部材と、発光層と、位相差板と、偏光板とをこの順に備える発光素子であって、前記反射部材は少なくとも垂直入射した円偏光は回転方向が逆の円偏光として反射する反射面である発明が記載されているところ、引用文献2 (段落【0013】、【0018】、【0022】、【0025】－【0026】、図1を参照) に記載されているように、偏光板で吸収されていた光を再利用するために、発光手段と位相差板との間に、偏光分離手段 (「コレステリックフィルタ111GB, 111RB, 111RG」が相当) を設け、前記偏光分離手段は、前記発光手段の発光波長範囲の一部または全部を含み、なおかつ可視波長範囲よりも狭い波長範囲の光であって、前記発光層側から前記偏光分離手段側へ向かう光のうち、前記位相差板の作用により前記偏光板で吸収される直線偏光に変換される偏光成分は反射し、それ以外の光は透過する構成を備えた発光素子は公知であり、該公知の構成を引用文献1に記載された前記発明に

整理番号:NT00P0891 発送番号:105514 発送日:平成17年 3月29日 2

適用することにより本願請求項1に係る発明とすることに、格別の技術的困難性は認められない。

- ・請求項2
- ・引用文献等1, 2
- ・備考

引用文献2（段落【0013】，【0016】，図1を参照）に記載された前記偏光分離手段もコレステリック液層層（「コレステリック液晶ポリマ膜」で形成された「コレステリックフィルタ111GB，111RB，111RG」が相当）であり、かつ前記位相差板も1/4波長板（「1/4波長板110」が相当）である。

また、引用文献1（図1を参照）に記載された発明における前記位相差板も1/4波長板（「1/4波長板23」が相当）である。

- ・請求項3
- ・引用文献等1, 3
- ・備考

引用文献3（図2及びその説明（第8頁）を参照）に記載されているように、一つの直線偏光成分は反射し、それ以外の光は透過する直線偏光分離手段（「反射型偏光エレメント104」が相当）は公知であり、引用文献1に記載された前記発明において、引用文献3に記載された偏光分離手段の代わりに前記直線偏光分離手段を適用し、その際、前記1/4波長板である位相差板と前記偏光板との間に設けるようにすることは、当業者が適宜設計し得たことである。

- ・請求項4
- ・引用文献等1 - 3
- ・備考

引用文献1に記載された前記発明においても、本願請求項4に記載された発光層を備えている（段落【0039】 - 【0041】，図1, 2を参照）。

- ・請求項5
- ・引用文献等1 - 3
- ・備考

引用文献1にも、マトリクス状に配置された複数の発光素子と、前記発光素子の発光動作を画像情報に基づいて制御する制御手段を有する表示装置が記載されている。

- ・請求項6
- ・引用文献等1, 2

Best Available Copy

整理番号:NT00P0891 発送番号:105514 発送日:平成17年 3月29日 3

・備考

引用文献1（請求項1，2，10，11，段落【0007】，【0033】，【0039】－【0040】，図1，21を参照）には、マトリクス状に配置した複数の画素を構成する発光素子と、該発光素子の発光動作を画像情報に基づいて制御する制御手段を有する表示装置において、前記発光素子は反射部材を兼ねる金属電極と、有機薄膜からなる発光層と、透明電極とを積層した構造の有機エレクトロルミネッセンス素子と、位相差板と、偏光板とをこの順に備え、前記反射部材は少なくとも垂直入射した円偏光は回転方向が逆の円偏光として反射する反射面である発明が記載されているところ、引用文献2（段落【0013】，【0018】，【0022】，【0025】－【0026】，図1を参照）に記載されているように、偏光板で吸収されていた光を再利用するために、発光手段と位相差板との間に、偏光分離手段（「コレステリックフィルタ111GB，111RB，111RG」が相当）を設け、前記偏光分離手段は、前記発光手段の発光波長範囲の一部または全部を含み、なおかつ可視波長範囲よりも狭い波長範囲の光であって、前記発光層側から前記偏光分離手段側へ向かう光のうち、前記位相差板の作用により前記偏光板で吸収される直線偏光に変換される偏光成分は反射し、それ以外の光は透過する構成を備えた発光素子は公知であり、該公知の構成を引用文献1に記載された前記発明に適用することにより本願請求項6に係る発明とすることに、格別の技術的困難性は認められない。

・請求項7

・引用文献等1，2

・備考

引用文献2（段落【0013】，【0016】，図1を参照）に記載された前記偏光分離手段もコレステリック液層層（「コレステリック液晶ポリマ膜」で形成された「コレステリックフィルタ111GB，111RB，111RG」が相当）であり、かつ前記位相差板も1/4波長板（「1/4波長板110」が相当）である。

また、引用文献1（図1を参照）に記載された前記発明における前記位相差板も1/4波長板（「1/4波長板23」が相当）である。

・請求項8

・引用文献等1，2

・備考

引用文献1に記載された前記発明も、発光層の発光色が画素により異なっており（段落【0008】を参照）、偏光分離手段が反射する光の波長範囲を、該発光色に対応して画素により異なるように構成することは、引用文献2に記載されている（「コレステリックフィルタ111GB，111RB，111RG」が相当）。

整理番号:NT00P0891 発送番号:105514 発送日:平成17年 3月29日 4

- ・請求項 9
- ・引用文献等 1, 2
- ・備考

引用文献 1 に記載された前記発明も、複数の画素を構成する発光層が、それぞれ赤色発光の発光層、緑色発光の発光層、及び青色発光の発光層のいずれかから構成されるカラー表示を行う表示装置であり（段落【0008】を参照）、赤色発光の発光層に対応する位置には赤色光を反射する偏光分離手段、緑色発光の発光層に対応する位置には緑色光を反射する偏光分離手段、青色発光の発光層に対応する位置には青色光を反射する偏光分離手段をそれぞれパターン形成した構成は、引用文献 2 に記載されている（「コレステリックフィルタ 1 1 1 G B, 1 1 1 R B, 1 1 1 R G」が相当）。

- ・請求項 10, 11
- ・引用文献等 1, 2
- ・備考

本願当該請求項に記載されたように構成することは、当業者にとって設計的事項である。

- ・請求項 12
- ・引用文献等 1, 2
- ・備考

引用文献 2（図 1 を参照）に記載されているように、赤色光を透過するカラーフィルター、緑色光を透過するカラーフィルター、青色光を透過するカラーフィルターをそれぞれパターン形成した構成は公知であることを勘案すると、本願請求項 12 に記載されたように構成することは、当業者にとって設計的事項である。

引用文献等一覧

1. 特開平 09-127885 号公報
2. 特開 2000-356769 号公報
3. 特表平 09-511844 号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC 第 7 版 G 0 9 F 9 / 0 0 - 9 / 4 6,

Best Available Copy

整理番号:NT00P0891 発送番号:105514 発送日:平成17年 3月29日 5/E

G 0 2 F 1 / 1 3 3 5

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第一部ナノ物理（ナノ光学） 加藤隆夫

TEL. 03（3581）1101 内線6221

FAX. 03（3592）8858

Best Available Copy